

知って備える防災メモ

第31回



男女が共に助け合う 防災体制をつくりましょう

自然災害はいつ発生するか分かりません。だからこそ、男性や女性、子どもから高齢者まで、生活様式の異なるさまざまな人の視点を、防災活動に役立てていく必要があります。

男女双方の視点を 取り入れた防災活動

内閣府男女共同参画局によると、東日本大震災において、衛生用品などの生活必需品が不足したり、授乳や着替えをする場所がなかったりした避難所が見られたとのこと。被災時に、女性用品や乳幼児用品が不足するなど、男性よりも女性のほうが厳しい状況におかれることがあります。

また、乳幼児を連れて保護者や妊産婦、あるいは高齢者や障がいのある方は、災害が発生したときには支援が必要となります。いざというときに、そのような状況に対応できるように、男女双方の視点を取り入れた防災訓練を日頃から行うことが大切

です。

方針決定の場への女性の参画

防災への取り組みは、男性が中心となっていることが多く、男女の視点を取り入れるためには、女性の意見が欠かせません。地域の自主防災組織や町内会などの方針を決定する場に、女性も加わる必要があります。防災活動の主體的な担い手として、女性が具体的な提案を出せる環境を整備し、男女が共に助け合う防災体制をつくりましょう。



問い合わせ
総務グループ

(☎05-11130)

人が輝き まちがときめく

仲間たち

Group

登別棋道連盟

『登別棋道連盟』は、昭和51年に発足し、翌年の1月1日に日本の囲碁を代表する団体『日本棋院』の支部として認可され、登別支部として活動しています。現在、在籍しているのは小学生から80代までの男性約50人。月曜日を除く週6日、10時から、富士会館で活動しています。

同連盟は、市内でさまざまな大会を主催し、日曜日に定例の大会を行っているほか、火曜日から土曜日は、集まった会員が自由に相手を選び対局を楽しんでいます。会長の加藤清さんが「囲碁には、ハンディキャップとしてあらかじめ碁盤に碁石を置いて対局を始めるルールもあり、どんなに実力差があっても



▲活動中はゆったりとした雰囲気

楽しむことができます」と話すとおり、初心者や高段位の方が入り混じって碁盤に向かっていきます。

このような活動のほか、年6回、市民活動センターで初心者を対象とした囲碁教室を開催し、囲碁を始めたい方への手助けにも努めています。

初心者も熟練者も 一緒に楽しめる碁碁を 始めてみませんか

加藤さんは「頭と指先を使うので老化防止につながります」と碁碁の良さを話します。加入するまで碁碁をほとんどしたことがなかったという小坂田芳也さんは「碁碁は認知症防止に役立つと聞いて加入しました。対局中に頭を使うのはもちろん、普段の生活でも考える癖ができました」と話してくれました。入会を希望する方は『登別棋道連盟』(☎05-1253)まで。